

2017年12月4日

～「旅に出たくなる、思わず手にとる」パンフレット～

第5回 ふるさとパンフレット大賞 決定！

大賞 京都府和束町。テーマは茶源郷！熊本市は南伸坊賞で2年連続受賞

主催：一般財団法人地域活性化センター 後援：時事通信社、共同通信社
協力：立教大学観光学部 野澤ゼミ、早稲田大学社会学部 佐藤ゼミ、武蔵野美術大学 杉浦ゼミ、
一般財団法人自治体国際化協会

地域活性化センターでは、東京都中央区・日本橋プラザビル1階に設置している「ふるさと情報コーナー」において、都道府県・市町村の観光・イベント等のパンフレット約2,600種類を展示し、来訪者の皆様にご自由にお持ち帰りいただいています。

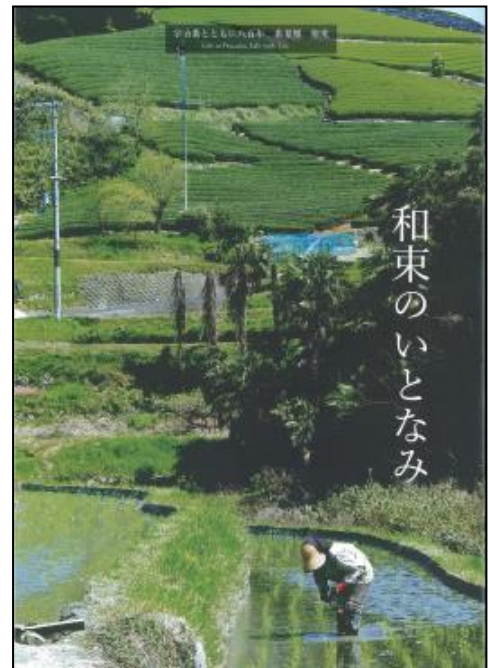
同コーナーは、年間、約34万部のパンフレットを提供し、提供部数の多い人気パンフレットランキングを毎年発表していますが、ランキングの上位は有名観光地に集中しがちです。そこで、当センターでは、平成25年度から「ふるさとパンフレット大賞」を設け、優れたセンスで地域情報を発信しているパンフレットを表彰しており、この度、第5回の各賞が決定しましたのでご報告させていただきます。今回は、宇治茶の産地である京都府和束町が大賞を受賞しました。熊本市は昨年の又吉直樹氏に続き、今年は俳優の高良健吾氏が登場し、委員長賞、南伸坊賞を2年連続で受賞しました。

記

1. 名称 「第5回ふるさとパンフレット大賞」
2. 目的
地域の魅力的なパンフレットの創造により、
旅に出ていただくことで地域の活性化を目指しています。
3. 各賞受賞パンフレット
【大賞】 京都府和束町「和束のいとなみ」
【優秀賞】 富山県氷見市「魚々のまち、ひみ。」
神奈川県開成町「かいせいびより」
【南伸坊賞】 熊本県熊本市「悠久 OLD IS GOLD」
【楓千里賞】 東京都青ヶ島村「世界が憧れる島」
【パッケン賞】 熊本県和水町「あなた×和水町」
【マッケン賞】 長野県青木村「信州あおきむら」
【地域活性化センター賞】 福島県「来て(春夏版)」

4. 選考委員

委員長 南 伸坊 氏 (イラストレーター)
委員 楓 千里 氏 (株式会社 JTB パブリッシング 取締役)
パッケン 氏 (お笑いコンビ パッケンマッケン)
マッケン 氏 (お笑いコンビ パッケンマッケン)
岩崎 正敏 (一般財団法人地域活性化センター 常務理事)



※事前審査は早稲田大学生2名、立教大学生2名、武蔵野美術大学生1名、
一般財団法人国際化協会(外国人)1名の計6名の方が行いました。

5. ふるさとパンフレット大賞 審査委員からのコメント

【南 伸坊 委員長】

◎総括

「ふるさとパンフレット大賞」五年目に入りました。粗選りの一次選考には、現役の学生さんが熱心に選んでくれました。（デザインや観光を研究されている学生さん、外国人の方もいます）一次、二次の選考で絞られたものが、我々審査員のところに送られてきて、目を通し予め候補作を決めて選考日に集まりますが、二次でふるい落とされたものも復活して、最終選考いたします。今回も全体のレベルは素晴らしいのですが、とびぬけてびっくりさせてくれるような「発明」が見られなかったのは残念でした。審査員は、みんなビックリ好きです。来年もふるってご応募ください。

◎個人賞 熊本県熊本市「悠久 OLD IS GOLD」について

熊本のパンフレットは、前年度に引き続きたいへんクオリティが高かった。無駄を省き、焦点を絞って、コンセプトもハッキリしている。しかし、他の審査員にはあまり人気がありませんでした。タレントさんの人気に頼っている感じが不評のようでした。私はとてもいいパンフレットだと思いましたが、日本人の誰もが知っている「地震」がまるで、なかったかのようなところ、ところどころに意味不明の空白ページのあるところは不満でした。

【楓 千里 委員】

◎総括

この賞も5回目を迎え、全体にレベルが上がっていると実感します。特に、地域のみなさんの素顔を上手に掲載しているパンフレットには自然と手が伸びます。地域の方参加型がトレンドになってきているのでしょう。しかし、今回大賞となった京都府和束町の「和束のいとなみ」はそのトレンドとは一線を画し、あくまでも特産の「宇治茶」「茶畑」をメインに、「宇治茶とともに八百年 茶源郷 和束」を落ち着いたデザインとコピーで格調高く作り上げています。ここならば美味しいお茶が生まれるはず、と自然に納得させる力があり、ぐいぐい引き込まれました。英文の配置が洗練されているのも、ポイントです。

◎個人賞 東京都青ヶ島村「世界が憧れる島」について

個人賞の東京都青ヶ島村のパンフレットは、とにかく表紙に度肝が抜かれます。「絶海の孤島が東京に?」「東京都青ヶ島村無番地の無番地って何?」「1/13とは?」と表紙を見た途端に疑問が浮かび、つい見入ってしまいます。東京の島の中でも特に訪れにくい青ヶ島ですが、一度は行ってみたいと思わせる仕掛けに成功していると言えるでしょう。表紙を開いた中面見開きの写真のクオリティーが上がると、さらに完成度が上がったと思います。

【パッケン 委員】

◎総括

今回の審査は大変困りました。いい意味で。数年前に比べて、言葉遣いも写真もデザインもアイデアも、どの要素をとっても、優れているパンフレットばかりで、全国のパンフレットの水準が上がっていることにとても感動しました。

◎個人賞 熊本県和水町「あなた×和水町」について

観光パンフレットというと、地元の名所、名産品、たまには有名人などを紹介するものが多いが、和水町はそういった手法を使いませんでした。住民の皆さんが日常生活で目にするような素朴なワンシーンを集めて、本物の暮らしを見せることに徹底しました。僕はこんなシンプルな日本が大好き。このパンフレットを見たからには、移住するなら和水町を考えますね。

【マクン 委員】

◎総括

町の観光スポットや特産品を細かく紹介するもの、焦点を一つに絞って「町の推し」を紹介するもの絵や写真だけで町の魅力を伝えようとするもの、QRコードやサイトと連動させているものなど、どのパンフレットもアイデアが満ち溢れていて選考に悩みましたが、そこを楽しみながら今年も参加させていただきました。

◎個人賞 長野県青木村「信州あおきむら」について

写真を使わず 風景からお土産品まで全てをイラスト（絵）で紹介するというアイデアが面白いと思いました。青木村に行って絵と場所を照らし合わせてみたいです。また、「絵画集の作品として大事に本棚に取っておきたい」そんなパンフレットですね。

【地域活性化センター常務理事 岩崎 正敏】

◎地域活性化センター賞 福島県「来て(春夏版)」について

地域活性化センター賞の「福島県観光ガイドブック 2017 春・夏版」は、表紙の「来て」という直截なコピーと星空を背景とした水辺の桜の美しい写真に惹かれて思わず手に取った。ページをめくると歴史・景観・食・イベントなどの情報が盛り沢山で、視覚に訴える表紙と実用的な内容の組合せの妙により、本棚に置いておきたいものとなっている。



左から 岩崎常務理事、楓千里 氏、南伸坊 氏、マクン氏、パクン氏

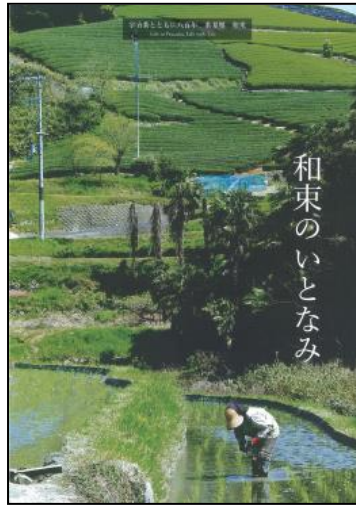
6. 詳細情報は、地域活性化センターHP「ふるさと情報コーナー」ページに掲載

<http://www.jcrd.jp/>

【お問い合わせ先】 一般財団法人 地域活性化センター 広報室 稲葉、畠田
電話03-5202-6137

第5回 ふるさとパンフレット大賞 受賞パンフレット

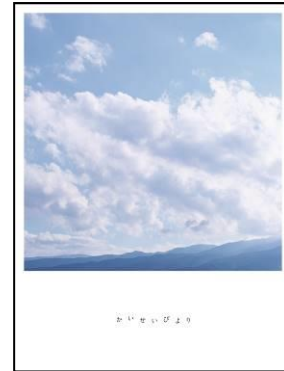
【大賞】京都府和束町



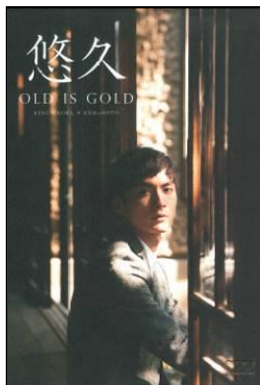
【優秀賞】富山県氷見市



【優秀賞】神奈川県開成町



【南伸坊賞】熊本県熊本市



【楓千里賞】東京都青ヶ島村



【パッケン賞】熊本県和水町



【マッケン賞】長野県青木村



【地域活性化センター賞】福島県

